

「九条の会」全国交流集会に参加

佐賀県みやき町憲法9条を守る会

6月10日、「九条の会」全国交流集会が開かれ、当会から3名が参加した。「九条の会」ホームページによると、当日の参加団体は全国から約800名、参加者1,550名ということである。

全国9条の会に参加して

河野 大樹

倒的な反対世論形成へという意思を強くした今回の参加であった。

9条の会 全国交流集会に参加して

塩川 聡

去る6月10日、「九条の会」全国交流集会に参加して参りました。我々は、会場である日本青年会館に開演30分前には到着したのですが、既に会場は満席に近く熱気に満ち溢れ、多くの方の関心の高さに驚きました。結局、1,500名程度の集まりで、立ち見も出る程の盛況ぶりでした。

た。そのほとんどは、「もつと若い人たちにがんばってほしい」「もつと若い人たちに興味を持ってほしい」という若い世代に対する期待や要望でした。私は、今年32歳になりましたが、ここで言う「若い世代」には、私も含まれているはずで、近い将来、憲法9条が改正され日本が戦争に参加せざるをえなくなつた時には、徴兵される年代かもしれませぬ。そして私達の子供世代は、間違いなく徴兵されることでしょう。我々の世代は、いわば憲法9条改正に関する一番の当事者というこ

に賛成する人でさえ、戦争には反対だと言うでしょう。しかし、戦争により巨万の富を得る企業・人がいて、国際貢献・平和維持活動など聞こえのいい言葉で戦争を起すことが、国がある以上、日本が戦争へと向かう布石は、一つも許す訳にはいきません。その第一歩が憲法9条改正だと思えます。

今回の集会で、憲法9条改正への危機感が更に高まったのと同時に、それを阻止すべく大きな力があることを再確認できました。貴重な経験をありがとうございました。

午後11の分散会に分かれ、それぞれの地域での取り組みについて報告が行われた。われわれ3名はそれぞれ別々の分散会へ参加し、その中の一つの分散会でわれわれの取り組みである「憲法改正10万人アンケート調査」(別掲)のアピールを行ってきた。

「九条の会」が発足して2年目、そして全国の地域、職域、職場の「会」が既に5,000を超え、日々誕生しているというところである。

次回国会で「憲法改正国民投票法案」が審議されると思われる。国民投票法案の行方もさることながら、憲法9条改憲を阻止するため全国の会と連携し

するまでは、「9条」改憲」という言葉を目にはしてはいたが、実際には耳には入っていません。現在の日本国憲法はGHQによって草案が策定され、米国の憲法に反論するため、九人の発起人のもとに発足された。発足2年目の6月10日、九条の会全国集会が東京で行われ、その会に参加してきた。47都道府県、会員は5,000人を超え、800を越える組織から1,500人以上の参加者があり、会場は熱気を帯びた巨大な組織となっていた。

日本国憲法は、昭和22年5月3日に施行され、前文に日本国民は、正当に選挙された国会における、恒久の平和を念願し、人間相互の関係を支配する崇高な理想を深く自覚するのであつて、平和を愛する諸国民の公正と信義に信頼して、われらの安全と生存を保持しようと決意したとある。戦後61年が過ぎ、平和を守り続けてきた我が国が、今なぜこの時期に改憲をしようと加

速しているのであらうか。靖国参拝にせよ国民に対しての詳細な説明がされないまま(政府)は走ろうとしている。この会に参加

すればならないし、憲法9条だけではなく、憲法前文を守り、憲法の精神を世界に求めて行かなければならない。「草の根運動」かもしれないが、私も根強く活動していきたい。

した。想像しただけでも胸が苦しくなります。しかし、その苦しみは60数年前の日本では至る所で実在していたことでしょう。その苦しみを乗り越えた多くの方々の思いで、今日の平和な日本があるのだと思います。しかしながら、平和を誓った憲法9条は、その苦しみを知らない人間の思いにより変えられようとしています。「日本が戦争なんてする訳ない」、多くの人はそう思っているはずで、私もそう思っている一人です。憲法9条改正

に賛成する人でさえ、戦争には反対だと言うでしょう。しかし、戦争により巨万の富を得る企業・人がいて、国際貢献・平和維持活動など聞こえのいい言葉で戦争を起すことが、国がある以上、日本が戦争へと向かう布石は、一つも許す訳にはいきません。その第一歩が憲法9条改正だと思えます。

今回の集会で、憲法9条改正への危機感が更に高まったのと同時に、それを阻止すべく大きな力があることを再確認できました。貴重な経験をありがとうございました。

この先は一人でも多くの参加者を募り、本日の終戦を迎えたいと思えます」という感想が寄せられました。

小泉首相は靖国神社参拝の理由を「戦後の日本の繁栄は心ならずも戦争に赴き亡くなった方々の尊い犠牲があったからであり、その方々へ感謝と哀悼の意を捧げるために参拝する」と言います。しかしこのような現実を放置したまま小泉さんが何を言おうと国民の誰も納得しうるものではないです。

戦後60年を過ぎた今、太平洋戦争で亡くなられた方々に対する日本政府の扱いはどうでしょうか？海外で亡くなった方は240万人、その内日本に帰った遺体は124万人にすぎず、未だに16万人の遺体は東南アジアを中心に海外に放置されたままです。

「九条の会」が発足して2年目、そして全国の地域、職域、職場の「会」が既に5,000を超え、日々誕生しているというところである。

次回国会で「憲法改正国民投票法案」が審議されると思われる。国民投票法案の行方もさることながら、憲法9条改憲を阻止するため全国の会と連携し

するまでは、「9条」改憲」という言葉を目にはしてはいたが、実際には耳には入っていません。現在の日本国憲法はGHQによって草案が策定され、米国の憲法に反論するため、九人の発起人のもとに発足された。発足2年目の6月10日、九条の会全国集会が東京で行われ、その会に参加してきた。47都道府県、会員は5,000人を超え、800を越える組織から1,500人以上の参加者があり、会場は熱気を帯びた巨大な組織となっていた。

日本国憲法は、昭和22年5月3日に施行され、前文に日本国民は、正当に選挙された国会における、恒久の平和を念願し、人間相互の関係を支配する崇高な理想を深く自覚するのであつて、平和を愛する諸国民の公正と信義に信頼して、われらの安全と生存を保持しようと決意したとある。戦後61年が過ぎ、平和を守り続けてきた我が国が、今なぜこの時期に改憲をしようと加

速しているのであらうか。靖国参拝にせよ国民に対しての詳細な説明がされないまま(政府)は走ろうとしている。この会に参加

すればならないし、憲法9条だけではなく、憲法前文を守り、憲法の精神を世界に求めて行かなければならない。「草の根運動」かもしれないが、私も根強く活動していきたい。

した。想像しただけでも胸が苦しくなります。しかし、その苦しみは60数年前の日本では至る所で実在していたことでしょう。その苦しみを乗り越えた多くの方々の思いで、今日の平和な日本があるのだと思います。しかしながら、平和を誓った憲法9条は、その苦しみを知らない人間の思いにより変えられようとしています。「日本が戦争なんてする訳ない」、多くの人はそう思っているはずで、私もそう思っている一人です。憲法9条改正

に賛成する人でさえ、戦争には反対だと言うでしょう。しかし、戦争により巨万の富を得る企業・人がいて、国際貢献・平和維持活動など聞こえのいい言葉で戦争を起すことが、国がある以上、日本が戦争へと向かう布石は、一つも許す訳にはいきません。その第一歩が憲法9条改正だと思えます。

今回の集会で、憲法9条改正への危機感が更に高まったのと同時に、それを阻止すべく大きな力があることを再確認できました。貴重な経験をありがとうございました。

この先は一人でも多くの参加者を募り、本日の終戦を迎えたいと思えます」という感想が寄せられました。

戦後60年を過ぎた今、太平洋戦争で亡くなられた方々に対する日本政府の扱いはどうでしょうか？海外で亡くなった方は240万人、その内日本に帰った遺体は124万人にすぎず、未だに16万人の遺体は東南アジアを中心に海外に放置されたままです。

「平和と憲法を語る集い」に参加

沖縄県南風町



沖縄県 南風原で挨拶する白坂青年部長

今回、憲法9条改憲反対のトップランナー的存在である南風原町の「平和と憲法を語る集い」に当会から参加権をいただき、5月2日(火)に参加してきた。当日は驚くべきことに「来賓」として挨拶することになった。即席では何の役にも立たないのに、インターネットを使いながら必死に勉強したが、いざ壇上に立つと何も言えなかった。それもそのはず。はっきり言って、会場におられた方々はこれまで、「憲法」や「平和」について真剣に考え、活動されてきた方々ばかりである。私などが壇上から偉そうに喋るわけもなく、大切な学習会に「華を添える」ところか「泥を塗る」といったような、申し訳ない気分であった。

今回、学習会に参加させていただいたおかげで、自分自身少しも、今ある平和について学ぼうという意識を持ってたことに感謝したいと思う。今はまだ、十分学習する時間を確保出来ないが、仕事を少しでも整理を付け、知識を深めて行きたいと思う。 白坂 良太

「国が探さないなら自分たちで」という思いでこれまで戦没者の遺体収集を行ってきましたが、昨年、今年と続けて20代、30代の若い人たちに呼びかけ、沖縄での遺体収集に参加してもらいました。その結果、今年も新たに4体の遺体を収集することができましたが、それに立ち会った若い参加者からは「まだ戦争は終わっていない。もつと自分の身近にあることなんだと実感しました」「今、私たちにできることは一人でも多くの戦没者を受け、沖縄の現状を多くの人に語り継ぐことだと思えます」「国や県行政が何もしないなら私たちがやるしかありません。

この先は一人でも多くの参加者を募り、本日の終戦を迎えたいと思えます」という感想が寄せられました。

戦後60年を過ぎた今、太平洋戦争で亡くなられた方々に対する日本政府の扱いはどうでしょうか？海外で亡くなった方は240万人、その内日本に帰った遺体は124万人にすぎず、未だに16万人の遺体は東南アジアを中心に海外に放置されたままです。

佐賀県みやき町憲法9条を守る会 (NPO法人戦没者を慰霊し平和を守る会) 〒849-0112 佐賀県三養基郡みやき町江口7561 TEL 0942-89-5135 FAX 0942-89-9281 http://www.senbotsusya.com e-mail: senbo-peace@senbotsusya.com